

# 「どこが他の子と違うのかなあ？」 「私には、これが普通。」

それぞれの目標を持ち、さまざまな分野で活躍されている方々を紹介します。

## 豊かな世界の広がり



↑人形(すべて手作り)と一緒に

ひまわり作業所で働きのながら、自宅で絵を描くことが趣味の石井悠貴さん。

昨年、SOMPPOパラリンアーツカップ2018において、県内で唯一「損保ジャパン日本興亜賞」の「和歌山県賞」を受賞されました。悠貴さんが描く絵は、緻密で、線の一本一本まで丁寧で、奥行きがあります。

**石井 悠貴さん(28歳)**  
自閉症(先天性の発達障害)の悠貴さんは、記憶力がとても優れていて、置き場所が元々あった場所から変わっているのが苦手です。でも、一度見た物を写真や動画のように覚えておくことができているため、絵を描く時は、自分が覚えているイメージを鮮明に描き出すことができます。

また、手先が器用で手芸も得意な悠貴さんは、人形が着ている服を見て、どういう作りになっているかを考え、同じように自分で作ることができます。「丁寧に、本当に細かく同じ間隔で縫うんです。」と母親のさゆりさんが教えてくれました。

これから、12月に行われる第1回障害者美術展の絵を描き始める予定で、お母さんと一緒にテーマを決めると、迷いなく描き始め、約1〜2週間で仕上げるそうです。どんな作品ができあがるのか楽しみです。



↑スポーツがテーマの絵



↑賞を受賞したバレーボールの絵



↑賞を受賞したバレーボールの絵

↑ソーラン節の絵

## たか せき たつ や 高 関 達 矢 さん(28歳)

### 仕事とスポーツの両立



←ボウリング選手権に出場された時の写真



福祉の現場で生活指導員として働きながら、スポーツにも力を入れていた高関達矢さん。仕事の合間に練習に取り組み達矢さんにお話を伺いました。

#### ▼スポーツから得たもの

これまで全国障害者スポーツ大会に8回出場しました。陸上競技、ボウリング、フライングディスクなど、色々な競技に取り組んできました。その中でも、フライングディスクが一番好きです。ディスクを投げる角度や手首の使い方を自分で調整し、なぜうまくいかなかったのか、どこが悪かったのかを分析して直していきます。

フライングディスクのおかげで集聚力がつき、福祉施設での仕事も今年で10年目です。スポーツに

高関さんのインタビューは次のページに続きます

出会っていないければ、仕事も続いていなかったかもしれません。

これまで介護福祉士の資格を取りたくて何度か挑戦しています。諦めずに勉強を続けていきたいです。

#### ▼悩んだ時期も

小学3年生の時から療育手帳を持っていました。最初は「自分がどこが他の子と違うのかなあ？」と思っていました。学校になじめず、休んでスポーツばかりしていた時期もありました。ある時、勉強とスポーツのバランスも大事だと思い始めました。それは、僕の周りのサポートしてくれる人々の方々が、その時々々に良いアドバイスをしてくれたり、僕が分析したり考えたりすることが好きだったからという理由もあると思います。

#### ▼今後の目標

仕事とスポーツのバランス、これは僕が重視している2つです。今は、学校とは違い、働くことは厳しいと感じています。資格の勉強も、趣味も、全部頑張りたいと思っています。

※療育手帳：知的障害のある方に交付されます。

## き 紀 さん(41歳)



さん(41歳)

### 仕事も、家庭も自分らしく!



**生**まれつき足が不自由で、30代の頃から車いすの生活をしている尾藤友紀さん。現在はJXTC エネルギータ株式会社の技術部門で働かれています。職場の方からも信頼され、笑顔が印象的で明るい性格の友紀さんは、4人のお子さんを育てるスーパーお母さんでもあります。

#### ▼就職・結婚・出産

先天性脳性麻痺による両下肢痙性麻痺で足が不自由だったので、何か手に職をつけたくて、高校に通いながら放課後にパソコン教室

にも通いました。平成9年に東燃株式会社に入社して、結婚、4度の産休・育休、4度の部署異動を経験しました。昨年から契約社員から正社員従業員へ転換となり、仕事の量も増え、新しい仕事も任せられていきます。覚えなければならぬことや難しいこともたくさんありますが、仕事ができる時はとても充実感を感じます。

#### ▼まわりの人たちの支え

まわりの人たちがサポートしてくれて今の私があります。8人家族で、特に両親のサポートが大きいです。4人の子どもたちや私の送り迎え、家事の手伝いなど、本当に多くの場面で助けてもらっています。子どもたちは、私が帰宅すると車いすを持って来てくれることもあるんです。

#### ▼自分らしくあるために

私は走ったことがないし、生まれつきの障害なので、「ちょっと歩けたらまあいいか、私には、これが普通。」と思っています。これからも私らしく、何事にも積極的に挑戦していきたいです。

#### ▼メッセージ

障害者の方を見て、何でも「やっであげろ」と言ってくれるのは、嫌がる方もいらつしやると思いますので、まずはコミュニケーションを取ってみてください。「いけますか?」「お手伝いしましょうか?」と声をかけて、障害者の方の気持ちを聞いてあげてほしいと思います。



↑4人のお子さんの写真

**障害って?**  
障害には体の障害や心の障害などいくつかの種類があり、一人ひとり違います。障害について考え、理解し、気持ちや家族、周囲の人たちみんなが生き生きと暮らしやすい「まち」をつくることにつながっていきます。

**まずは「じぶんごと」として**  
行政として、障害がある人に様々な支援を行っています。

そして、子どもから高齢者まで誰もが自分らしい生活を送ることができる社会にするには、行政だけでなく、私たち一人ひとりの理解と心配りが必要です。この機会に一緒にできることについて考えてみませんか?

